
ポケハン学園バトル部！！体育祭！！

フォック・リザハート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケハン学園バトル部！！体育祭！！

【Nコード】

N04970

【作者名】

フォック・リザハート

【あらすじ】

バトル部100話記念、体育祭でバトル部メンバーとコラボキャラ達が大暴れ、波乱の体育祭、開幕！！

開幕！チーム紹介（前書き）

ついに開幕しました体育祭

それではどうぞー！

開幕！チム紹介

ここはポケハン学園のグラウンド、今日はなんと体育祭だ！！

しかも豪華な体育祭になるだろう

それでは行ってみよう！！

フォック「みなさんこんにちはー!!」

会場の応援席＆観客席「こんにちはー！！！」

フォック「ついに始まりましたポケハン学園バトル部の体育祭！！みんなー！！のってるかー！！」

応援席・観客席
 イエー————————イ！

フォック「盛り上がっているね、今回バトル部はついにバトル100に突破しました、それを記念してこれよりバトル部による体育祭をとりおこないたいと思います！！司会・進行はポケハン学園バトル部作者のリザードン、フォックと」

ゼウス「ポケハン学園校長のアルセウスのゼウスと」

「イククン」部副顧問のイェンクックのイククンと」

ガル「バトル部顧問のイャンガルガのガルが進行と司会をさせてもらう！！気合入れて応援頼んだぞ！！」

応援席・観客席『イエーーーーー！ーーーーー！
！』

フォック「それでは選手入場です！！」

入場門から白い煙が激しく吹きそこから選手が入場してきた

フォック「さて、まず入場してきたのはバトル部の部長、ラッシュをリーダーに登場した赤チーム！！」

ゼウス「ラッシュ君は強いですが、それでも彼の实力は体育祭でどのような影響になるのか、気になりますねフォック君」

フォック「はい、うちの看板キャラですし（汗）その他メンバーを紹介します、赤チームのメンバーはチームリーダーのラッシュ、ピンクリザードンのサクラ、ラッシュのライバルであり番長のゴウカザルのモモ」

モモ「俺！参上！！」

フォック「はいはいやらなくていいから（汗）モモと同じゴウカザルのゴウ君、そして同じくゴウカザルで元スパーク団のゴッシュ、そして交雑種^{ハイブリット}ポケモンの電撃ヒトカゲ、ヒイロ君とその友達のワニノコのダイル君の以上が赤チームのメンバーです！」

赤チームは整列して並んだ

フォック「続いてはバトル部副部長でヘタレのレウト率いる青チームです！！」

レウト「ヘタレ言っな！！（泣怒）」

泣きながらレウトは出てきた

フォック「そしてメンバー紹介です、まずはリオレイアのレイラ、元リオレウスで俺の弟子のホムラ君」

ホムラ「師匠っ！！」

ホムラは作者フォックに手を振っている

フォック「あはは（汗）そしてハンターラセ君事、神月^{かみつき}ラセ君、そしてパートナーのリオレウスのリオ君、ホムラ君の恋人のアオイちゃん、元スパーク団のバクフーンのムゲン、そして魔界の使途のデス君、以上の8名です！！」

応援席・観客席『わああああああああああああああああ！！！！！！』

会場はヒートアップした

フォック「続いては…おっとスピード馬鹿事バシャーモのブレイ率いる黄色チームの登場だ！！」

ブレイ「絶対勝ってやる！！そして我がライバルを倒す！！」

なぜか別の方向にまでいつてるような（汗）

フォック「メンバーは同じく異世界ラセ君こと、神月^{しんげつ}ラセ君、不良

の御羅君、そしてヘタレ第2号の人間でアカムトルムのエイク、そしてその恋人で人間でミラボレアスのミナミちゃん、チートピチュー、ライト君とその妹の桜花ちゃん、そして元スパーク団のゾロアーク、アバリ、以上です!!!」

続いて入場してきたのは

フォック「お次は緑チーム、ナルガクルガのルガーを中心のチームだ!」

フォック「さらにジュカインのルング、元アクラヴァシムのダイアナにヒイロ君と同じく交雑種^{ハイブリット}ポケモンのウランちゃん」

ウラン「よろしくですわ」

フォック「そして元ギアノス、プリムラ、そして更正中の子供っぽいゴウカザル、フレンの6名です!!!」

続けて

フォック「次に出てきたのはピンクチーム、メンバーは元お姫様の元気な少女、リリーちゃん!」

リリー「やつほー!!!」

リリーは手を振る

フォック「そしてそのリリーちゃんの相棒龍がばね!!!」

がばね「相棒龍(汗)まあたしかにそうだな(汗)」

フォック「そしてピースファミリーの十代目、スカイ君！」

スカイ「ちよっと!？」

フォック「そのスカイ君の右腕、グレイ君!!」

グレイ「十代目!一緒にがんばりましょう!!」

グレイは気合十分だった

フォック「そしてスカイ君の幼馴染で天然ボケなエンペルト、チエルちゃん!」

チエル「がんばるよ」

フォック「そして元イヤンクックのアイリスと元ダイミョウザミのウィリア、そしてアイリスの恋人であるハンター、スバル!!」

アイリス「スバル!優勝しよう!」

スバル「あ、ああ(汗)」

続いては

フォック「おつと出てきたのは白チームだ!!メンバーはラグラージのラグ君の本物と分身、さらにキノガッサに来たぞ!!」

ラグ(本物)「がんばろうね、もう一人の僕」

ラグ（分身）「うん！」

キノガッサ「よっしゃあ！！優勝してやるぜ！！」

キノガッサも気合十分だ

フォック「そして元スパーク団のルカリオのバベルと同じく元スパーク団のジュカイン、ユーム、そして元アグナコトルのサンナと元ウロコトルのイシアの姉妹と天空の使途のセイント君の8名だ！！」

そして最後は

フォック「最後は注目のチーム、黒チーム！！メンバーは俺の作品のポケダンの主人公で元人間、悪魔亀大王ドル君ことナエトルのドルク！！」

ドルク「優勝してやるぜゴラア！！」

フォック「そしてその弟子である銀イーブイのソウ君、元スパーク団の人間、リオーネ、そして交雑種^{ハイブリット}ポケモン、イーブイのラハール君とブイゼルのユーノ君」

ユーノ「おっ！その彼女！俺t」

ドガッ！？」

ユーノ「ぐはっ！？」

ラハール「はいはいそこ迷惑かけないで馬鹿」

ラハールはユーノを馬鹿にする

本人いわく馬鹿なのでbyラハール

フォック「（汗）えゝさらに最強を目指すブイゼル、ウェア君、そしてポケモンに変身してるトオル君と相棒のリユウ君、さらにアキちゃんとその相棒のユキちゃんも参加だ！！今回二人はリザードンとフローゼルの姿で参加、二人で一人ということになるのでみんな！！応援よろしく！！」

応援席・観客席『わああああああああああああ！！！！！！』

フォック「以上7チームで体育祭を行います！！」

こうして始まった、体育祭

優勝はどのチームなのか！？

開幕！チーム紹介（後書き）

ついに始まりました！バトル部100話記念

バトル部の方で出演してるコラボキャラと雷牙さんとのコラボ小説に出演しているキャラもいますので勝手に借りたキャラの作者さんはすみません（汗）そしてお借りしたキャラの作者さん、ありがとうございます

ラッシュ「ついに始まったな」

一応言うけどね、文化祭は出演キャラも別のもになってしまふ者ともいるから

ラッシュ「まあ体育祭限定のもいるんだな」

色々和白熱したけどがんばらないと、それでは次回をお楽しみに！

第1種目 ドリブルリレー（サッカー）（前書き）

ついに種目に突入だよ！

ラッシュ「さて、最初の競技はなんだ？」

ラッシュ「だな、それじゃあゴウ、頼んだぜ」

ゴウ「ああ！」

ダイル「オイラも！」

二匹は気合十分だ

青チーム

アオイ「ここはムゲン君が次の方走っていいかな？」

ムゲン「かまわないけど？最初は誰を走らせるの？」

レウト「よし！デス！最初はお前から行け！」

デス「俺！？」

ホムラ「そうだな、後はアンカーは俺が行くぜ」

レウト「頼んだぜ♪兄弟♪」

ホムラ「おう！」

黄色チーム

桜花「最初は私が行く！」

ライト「おお！そんじゃあ頼んだぜ桜花！」

ミナミ「なら私が次ね」

ブレイ「そんじゃ頼んだ、アンカーはもちろん俺だ！！」

元気よく返事するスピードバカ、ブレイ

緑チーム

ルガー「最初は誰が走るんだ？」

ウラン「それじゃあ私が走りますわ、相手のチームも同じようですわ」

プリムラ「なら私が最初走る」

ルガー「ウランだったなたしか？超能力とか使っなよ？作者もわかってるみたいだ」

ウラン「わかってますわ、私だってそんな卑怯者ではありませんの」

ルガー「二回走るのは俺とプリムラだ」

プリムラ「わかった……」

ピンクチーム

リリー「それじゃあアイリンとウィリアで」

アイリス「えっ!？」

ウィリア「わかった」

リリー「アンカーはスカイね」

スカイ「俺!？」

グレイ「十代目!俺が応援してます!」

がばね「いやグレイも走るだろ(汗)」

白チーム

ラグ(本物)「ここは素早さに僕ともう一人の僕の方がいいかもね」

ラグ(分身)「そうだね」

キノガッサ「そんじゃあ俺がアンカーで」

ラグ(本物)「ここは素早いユームの方がいいと思うけど(汗)」

キノガッサ「いゝや!俺がアンカーだ!」

ユーム「しょうがない……」

黒チーム

ドルク「まずは馬鹿イタチから走れ」

ユーノ「誰が馬鹿イタチだ!!（怒）」

ラハール「それもそうですね、じゃあドルクさん、僕がこの馬鹿イタチの次に走りますので」

ドルク「じゃあ頼んだぜラハール」

ユーノ「この野郎!!（怒）」

……

フォック「さて!みんな準備が整いました!まずは第1走者からのスタートです、第1走者は順番にリザレ君、デス君、桜花ちゃん、ウランちゃん、アイリス、分身ラグ君、ユーノ君の以上が第1走者となります」

全員がスタートラインに立つ

フォック「それでは!位置について……よい!」

パーーーーーーン!!

各チームが一斉にスタートした

ウラン「お先にですわ」

フォック「おつと緑チーム、ウランちゃんが一番だ！続いて二番にゴウ君、そこから順に桜花ちゃん、アイリス、分身ラグ君、デス君、ユーノ君となっております！」

ユーノ「くそっ！俺が岩の交雑種^{ハイブリット}ポケモンじゃなかったら早く走れるのによ！」

そう、彼は岩タイプの交雑種、つまり重いためか走るのはちょっと遅かった、さらにボールが遠くに飛ばされるはめに

ドルク「なにやってんだよ馬鹿イタチ！！（怒）」

ソウ「アルテマ食らわせますよ！！（怒）」

ユーノの遅さにキレている最強腹黒師弟コンビ（汗）

フォック「さて、ここで緑チームが次の人にボールを渡した！他のキャラ達も次々とボールを渡す！」

次の走者はダイル、ムゲン、ミナミ、プリムラ、ウィリア、本物ラグ、ラハールだ

プリムラ「よつと」

ムゲン「僕のドリブルはそう簡単にいかないよ」

なんとムゲンはテクニカルなドリブルで緑チームを抜かした

プリムラ「負けない……」

負けじとプリムラは追いかける

ダイル「ムゲンさん速いな〜（汗）」

3 番目にはダイル

ミナミ「がんばらないと」

ウィリア「すごいな〜みんな」

4・5 にはミナミとウィリア

ラグ（本物）「みんな速いな〜（汗）」

遅れて

ユーノ「やっとなつたぞ」

ドルク・ソウ「Wアルテマ!!」（怒）

ユーノ「ぎゃあああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああああああ
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

師弟コンビのWアルテマで

シュウ〜〜ウ

見事にイタチの丸焦げにされたユーノ

ラハール「あの馬鹿のせいで遅れたじゃないですか！ アンラッキー
君の不幸が移ったような感じです」

愚痴をいいながらラハールもドリブルしながら行く

……

フォック「さて……ここまでの順位ですが1位は青チーム、2位は赤
チーム、3位は緑チーム、4位は黄色チーム、5位はピンクチーム
6位は白チーム、そして最下位は黒チーム、まもなくアンカーにな
ろうとしています」

ハンターラセ「頼んだ」

ホムラ「ああ！」

フォック「ここで青チームがアンカーとなった！！」

ヒロ「先輩！後は頼みました！！」

ラッシュ「ああ、行くぜ！！」

フォック「続けて赤チームもラッシュにバトンが渡った！！」

ゼルス「赤チームはヒロが一度転んだがなんとか立ち上がりラッ
シュにアンカーを託したようだな、遅れてすまなかったな！俺も実

況として参加させてもらっ」

フォック「ゼルス遅いよ（汗）」

ゼルス「すまない」

ここでゼルスが実況に参加

……

ホムラ「やるじゃねえかラッシュ！」

ラッシュ「お前もいい走りしてんじゃねえかホムラ？」

フォック「ここで1位と2位争いだ！そこから黄色チームのプレイが追いかける！！」

ブレイ「うおおおおおおおおおおおおおお！！！！我がライバル、アバリから受け取ったこのボールで1位をとってやる！！」

すごいドリブルでラッシュ達を追いかけるスピードバカ

ルガー「もう勘弁してくれ（汗）」

フォック「こつちもデットヒートだ！！そこに遅れていた黒チームもアンカーのドルクにボールを渡した！！」

ドルク「負けねえ！！」

ドルクも気合十分に追いかける

フォック「おっとここでゴール！！1位は赤チーム、2位に青チーム！」

ホムラ「チクショーラッシュに負けちゃった」

ホムラは悔しがる

レウト「おつかれ〜ホムラ〜」

アオイ「よくがんばったよ」

ラッシュ「まあいい練習になったぜ」

リザレ「さすが先輩です！」

ヒロ「逆境でもなんとかゴールした先輩はすごいです！」

……

フォック「さて結果ですが、1位は赤チーム、2位は青チーム、3位は緑チーム、4位は黄色チーム、5位はピンクチーム、6位は白チーム、そして最下位は黒チームです！」

得点

黒チーム	白チーム	ピンクチーム	緑チーム	黄色チーム	青チーム	赤チーム
10	20	30	70	50	80	100

第1種目 ドリブルリレー（サッカー）（後書き）

ラッシュ「最初は俺達が得点だな」

色々点数つけるの大変（汗）

ラッシュ「まあ次の競技はどうなのか楽しみだな」

第2種目 オタマー投げ（前書き）

ラッシュ「なんだよこのタイトルは（汗）」

フッフ（黒）ついにあの野朗を使うときが来たのだよラッシュ君（黒）

ラッシュ「あいつだな」

リザレ「フォックさん、何を企んでるんだろう（汗）」

ホムラ「師匠の案はなにげに悪巧みでもアイデアがすごいんだよな（汗）」

ドルク「楽しみだな」（黒）」

第2種目 オタマー投げ

フォック「続いて、プログラムナンバー2、オタマー投げです!!」

ゼウス「オタマー投げとはなんですかフォック君？」

観客のみんななどが疑問に思ってしまったている

フォック「今から説明します、この競技はハンマー投げと同じように回転しながら投げたものの距離を競います、もっとも距離が長い順に順位をつけていきます、そして使用するのは…こちら!!」

すると何処からか上空から何かが落ちてきた、それは

????「あああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!

叫び声をあげながら落ちていった

フォック「今回使用するの…このブラックサイドのボス、ガイコ
とおたまです!!」

観客席『わ—————』

—————『!!!!!!!!!!!!!!』

会場はまさかのことで騒ぐ

フォック「今回、このおたまは競技の道具としてもらってます、なおもちろんみなさんに被害を受けないように色々ほどこしていますので安心してください」

観客席『おーーーーー！！！』

ヒロ「あの野朗（汗）結局フォックさんに利用されたな（汗）」

このおたまごとガイを知っている電撃ヒトカゲ、ヒロ君

ウラン「さすがフォック様ですわ」

こっちは喜んでいるドSキルリア、ウランちゃん

ダイル「フォックさん、やりすぎのような（汗）」

一度やられてしまったガイの被害者、ダイル君はなぜかフォックの行動に妙な反応を見せる

フォック「今回はたつぷりといったぶっっておこうと思い、このようにしました」（黒）」

とうの本人は笑顔を見せているが口がニヤリとしていた

全チーム『（恐るべしフォック（さん・様）（汗））』

全チームはこの作者フォックの恐ろしさに恐怖を感じた

フォック「それじゃあ、気を取り直していつてみよう！！」

なぜかハイテンションなフォック

……

ここはスマブラでも有名なホームランコンテストの会場

ここでおたま投げをするのだ

もちろん代表一人が投げるので他のチームメイトはグラウンドでその様子を見ることにした

フォック「それじゃあまずは最下位の黒チームから、黒チームはドルクからだ!!」

黒チームはドルクが投げることにした

ちなみにガイもといおたま野郎は鎖でぐるぐる巻きにされていてさらにこの鎖はほけないようにフォックが魔法などで細工したためほどもくことも逃げることもできない、足も縛られているため不可能

ドルク「オメエがヒイロのところで色々傷つけたおたまか（黒）」

ガイ「だっ たら」

しらをきるガイ

ドルク「エナジーバスターとかでぶっ飛ばしてやろうか」（黒）」

と、恐ろしいことを言ってきた、しかもそのエナジーバスターの発

射準備OKになっていた

ガイ「ヒイヒイヒイヒイヒイヒイヒイヒイヒイヒイッ！！！！！！」

フォック「はいはいドルク、後でたっぷりとそのおたまをいじらせてやるから早く始めてね」

ドルク「ヘイヘイわかったよ」

ドルクはエナジーバスターを撃つ構えを解除した

ドルクは口に鎖を噛んでつかみ、そこから体を回転させた

ドルク「いふやはれ！！（いきやがれ！！）」

ポイツ

ガイ「ぎゃあああああああああああああああああああ
あああああああああああああああつ!!!!!!!!!!!!!!」
!!!!!!!!!!!!!!?」

キラーン

ガイはお星様となって消えた

フォック「まあ距離の方は大丈夫です、今俺が早くします、時よ！」

ドガーーーーー
ン!!!!!!!!!!

何処から落ちてきた

それは

ゼルス「ただいまの記録… 500・65mだ」

そんなガイことおたまは

ガイ「ピクピク」

地面の半分埋まっていた、しかも犬。家のポーズをして

フォック「おゝさすが悪魔亀大王ドル君、さあ次いつてみよう!」

ちなみにガイはワープで戻って来た

ガイ「……」

すでに頭にはでかいタンコブがついていた

フォック「続いては白チーム、投げるのは」

キノガッサ「俺だ!!」

気合十分なキノガッサが投げるようだ

キノガッサ「やってやるぜ!! オラァ!!」

キノガッサは鎖を掴んで回転してガイを投げた

ガイ「ぎゃあああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああつ！！！！！！！！！！」
「！！！！！！！！！！」

再び投げとばされたガイ

そしてお約束の

ドカ
ン

ガイ「ピクピク」

半分地面に埋まつての犬。家。

キノガッサの記録は300・71mだった

キノガッサ「ちえ」

キノガッサは悔しがる

•
•
•
•
•
•

次はピンクチーム、投げるのは

グレイ「行くぜ！！オラァ！！」

勢いよくおたまを投げたグレイ

ドカ――――

――ン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!?

ガイ「ピクピク」

ゼルス「記録は457・53mだ!」

ピンクチームが2位に

……

続けて黄色チーム

ライト「オラア!! アイアンテール!!」

ドゴツ!!

ガイ「ぐはっ!?!」

ライトは同じみのアイアンテールでガイをぶっ飛ばした

結果

ゼルス「記録は600・71mだ」

ライト「よっしゃあ!?!」

なんと黄色チームがトップにおどりでた

ドルク「やっぱライトつええな」

ソウ「伝説キラーですし」

ドルクはライトの強さに実感

……

緑チームは

ルガー「はっ!!」

ルガーが投げた

記録は

ゼルス「200・13mだ」

ルガー「まだまだか」

……

青チームは

レウト「必殺!! レウス投げ!!」

とかなんとかなネーミングセンス悪い投げ方でおたまは飛んだ

ドカ――――――――――

ン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

ゼルス「記録100・58m」

レウト「しょんなゝ（泣）」

レウト、いいところ見せられず

……

フォック「さあ！ついに赤チームの出番です！赤チームが黄色チームの記録を塗り替えるのか！……そしてはかなくも届かずに終わるのか！……赤チームはこいつだ！……」

ラッシュ「俺の出番だな」

赤チームはなんとラッシュ

ラッシュ「ようおたま、テメエには遠慮なくやらせてもらっぜ、ダイルをやった分お前を投げ飛ばす」

ガイ「やってみろ！後でおま……」

ラッシュはガイを睨みつける

ヒロ「ラッシュ先輩こええゝ（汗）」

ダイル「よほどオイラの事を」

ラッシュは鎖をつかむ

の結果に終わった

そのおたま野朗は

ガイ「ピクピク」

さらにでっかいタンコブを作ってしまった

得点

赤 200

青 90

黄色 130

緑 90

ピンク 100

白 40

黒 60

第2種目 オタマー投げ（後書き）

いい感じ♪（黒）

ラッシュ「すげえ笑顔だな（汗）」

おたまをこのように利用できていいし♪貸してくれたメガネ獣人先生、ありがとうございます！

ラッシュ「ってかまた利用するのか？」

まだまだあのおたまには（黒）

ラッシュ「すげえ恐ろしいぞ作者（汗）」

昼食タイム（前書き）

何もネタが思い浮かばない（汗）

ラッシュ「だったら書くなよ（汗）」

昼食タイム

前半はかなりの攻防となり、それぞれのチーム、かなりがんばっている

前半が終了し、ただいまの成績は

赤チーム 300

青チーム 300

黄色チーム 270

緑チーム 290

ピンクチーム 260

白チーム 270

黒チーム 160

1位争いは赤と青の二チーム

黄色チームもライトや桜花のチートな二人やアバリがいたのでなんとか4位に

白チームもなんとかがんばって同じく黄色チームと4位

最下位の黒チームはブイゼルのユーノのせいで最下位+おまけにラハール&悪魔亀大王ドル君とその弟子にフルボッコにされるのであった(汗)

……

フォック「さあて！後半に向けてここからは昼食とさせていただきます、次の競技は1時間後です、それまでゆっくり休んでね」

というわけで待ちに待った昼食タイム

……

赤チームサイト

ラッシュ「さて飯だ」

ラッシュは弁当を出した

メニューは肉系が多く、野菜も多い、さらにご飯の真ん中にはちゃんと梅干しがあった

サクラ「あたしのもよ」

サクラのはお重があって、それぞれ違う

1段目は野菜や肉類

2段目はまつたけご飯

3段目はくだものがいっぱい

ヒロ「サクラさんすごいですね」

サクラ「あたしもこのくらいできるわよ」

えっへんといばる

ダイル「後半もがぜん気合入ってきましたね」

ラッシュ「そうだな、それじゃあ頂くか」

モモ・ゴーシュ「おう！」

ゴウ「うまそうだな」

赤チームのメンバーは早速昼食を取った

……

ホムラ「ホムラ特製弁当だ！！さあみんな食ってくれ」

青チームはホムラが腕によりをかけて作った弁当だ

バランスいい感じでとてもいい

アオイ「私のもあるけどホムラ食べる？」

アオイは弁当をホムラに渡す

ホムラ「食う食う」／＼／＼」

赤くなるホムラ

ハンターラセ「リオ、はい」

リオ「おゝありがとなラセ」

こちら友情コンビは仲良くホムラの弁当を食う

ムゲン「もぐもぐ…いけるねこれ」

デス「おかわりくれ！」

好評らしく、デスはおかわりを要求

ホムラ「弁当ならたくさんあるからいいぜ」

ホムラの弁当は好評だった

アオイ「おいしい」

ホムラ「アオイ／＼／＼」

にやけるホムラ

レウト「うめ」

レイラ「じゃあ私のもちゃんと食べて頂戴」

ガボッ

レウト「うぐっ!？」

レイラは自分の弁当をレウトにパイ投げしたように食べさせる

おいおい（汗）

……

ブレイ「がつがつ!！」

アバリ「ブレイ、もう少しゆっくり食べた方がいいピョン（汗）」

ブレイ「うるへえゝへめえゝにいはへるふほりねえ!!（訳：うるせえゝテメエに言われるつもりねえ!!）」

ちゃんとゆっくり食べましょう（汗）

……

ウラン「ヒイロ様と一緒に弁当を楽しみにしていましたのに」

ウランは悔しい気持ちだった

自分は好きな人の輪に入れないのだから（汗）

……

アイリス「リリーって料理すごい！？ねえねえ！今度教えてー！」

こちらピンクチームはリリーが速攻で料理を作ってみんな食べている

そんなときアイリスがリリーに料理を教えて欲しいとリリーにお願いする

リリー「いいよ〜」

OKのようだ

アイリス「やった〜！！これでスバルを喜ばせられるー！！」

愛する者のためのことかい！？

スバル「いやアイリス十分できるように思うが（汗）」

……

キノガッサ「うめえ〜な」

ラグ（分身）「ラッシュ達に料理を教わって作ったから」

ラグ（本物）「なんか僕まで料理うまくなった感じに思うよ（汗）」

白チームはラグ（分身）が弁当を作ったらしい

ラッシュと一緒に住んでいるためか料理の腕も上がったらしい分身
ラグ君

……

ドルク「あむ！」

ソウ「師匠！今度は負けなようがんばりましょう！-」

最下位の黒チームは一部気合入れて食べていた

ユーノ「……」

ユーノはドルク＆ソウのWアルテマとラハールのシャドーボールで
顔や体もボコボコにされて屍状態になっていた

ラハール「もうあの馬鹿イタチは出なくていいから僕達だけでやり
ましょう」

トオル「結局そうなるのか（汗）」

リュウ「たしかにこの馬鹿イタチのせいだしな」

リュウはバクバクとかなりの量を食べている

リュウはかなりの大食いなのでこのぐらいはペロリと平らげる

ほとんどトオルが動いているが（汗）

ウェア「同じブイゼルとして恥ずかしいよ馬鹿ユーノ（汗）」

同じブイゼルウェアも馬鹿イタチことユーノを馬鹿にする、イタチ
というのは自分に思ってしまうので馬鹿ユーノとある意味まだマシ
な方と言う

ユキ「あたしも同感（汗）」

進化前のブイゼルになっているユキも同情する

……

フォック「さて！後半戦はどのような戦いになるのかー！」

後半戦が始まる

昼食タイム（後書き）

中々ネタが浮かばない（泣）

ラッシュ「もういいって（汗）」

とりあえずメッセージで種目を送った方のをやってみようっと

ラッシュ「それあるならやれよ（汗）」

最終種目 自由走（前書き）

さて、泣いても笑っても最後の競技です、遅くなって申し訳ありませんでした！！

ラッシュ「ついにか」

短くなっただけととりあえず最終種目開始です！！

白チーム 270

黒チーム 160

リレーメンバー

赤：ラツシュ

青：レウト

黄色：ブレイ

緑：ルガー

ピンク：リリー

白：ラゲ（本物）

黒：ドルク

メンバー各自がスタートラインへ

ホムラ「レウト……負けんじゃねえぞ……！」

ゴーシュ「負けんなよラツシュ……！」

そして他のメンバーも応援する

ドルク「待てやゴリアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

他の走者も勢いよく走る

……

現在の順位

1位 ブレイ

2位 ルガー

3位 ラッシュ

4位 ドルク

5位 リリー

6位 ルガー

7位 レウト

リリー「負けない！ウィップカーニバル！」

リリーは地面から大量の蔓を発生させた

ブレイ「そうはいくか！フレアドライブ！」

ラグ「プラスマソニック！」

ルガー「夜真空^{やしくうつ}！」

ドルク「エナジーバスター！！」

ここで他の走者がリリーの攻撃を止めに互いに攻撃してくる

ラッシュ「さすがに正々堂々だ、ここは隙を見て走るか」

ラッシュは隙を見て先へと走った

続けて

レウト「ヘタレを舐めるな！！」

レウトもラッシュの後を追いかける

リリー「絶対勝つもん！フラワーウィップ！」

レウト「スピード王はこの俺だ！！破壊光線！！」

ラグ「デンインパクト！」

ルガー「こうしてる場合じゃないぞ！トゲ弾！」

ドルク「エナジーバースト！！」

もはや自由走どころではなかった（汗）

……

校門前

フォック「さて、最初に出てきたのは…おっとラッシュとレウトの二人が来たぞ！」

なんと互いに走っている

「ラッシュ、負けるか！」

レウト「俺もだ！！」

互いのグラウンドを走って

フォック「さて！もうすぐでゴールだ！はたして勝つのは！」

[illegible]

勝ったのは！？

-
-
-
-
-
-

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•

みんなが緊張した面持ちで見守る

そして……

フォック「両者ゴール！！優勝は赤と青チームだ！！」

赤・青チーム全員「やったあああああああああああああ
あああああああああああああ！……！！！」

赤と青のチームが叫ぶ

そして遅れて

ルガー「はあ、結局は3位か」

ドルク「あゝくそっ！」

「攻撃しなきゃよかった」

ラグ（本物）「バトルしてる場合じゃなかったよ（汗）」

ブレイ「なんで俺だけビリだよちくしょおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお！！（泣）」

結果

優勝：赤・青チーム

2位：緑子ム

3位：ピンクチーム

4位：白子ム

5位：黄色チーム

6位：黒チーム

フォック「では優勝したチームにはトロフィーを二つです！」

作者の都合上、トロフィーを二つ分に魔法でなんとかした

ラッシュ「レウトもやるな」

レウト「へへっ、俺を舐めるなよ」

サクラ「やったわ！」

モモ・ゴウ・ゴーシュ「よっしゃあー！」

ヒロ「勝ってよかった！」

ダイル「オイラ達やりましたね兄貴！」

ホムラ「よくがんばったぞレウト！」

ハンターラセ「よかった」

リオ「同じリオレウスとして誇りに思うぜ！（元人間だけどな（汗））」

アオイ「同時優勝してよかった♪」

プリムラ「次は…がんばる」

フレン「もう未練ないな」

リリー「あゝ攻撃しちゃったけど次は負けないように今度は正々堂々と行こうっと」

がばね「俺達も次のときにはな」

スカイ「結局優勝は赤と青なんだね（汗）」

グレイ「十代目！次こそは絶対に勝つようにがんばりましょう！」

チエル「次は負けないうががんばろう」

アイリス「優勝できなかった（泣）」

ウィリア「がんばったのに」

スバル「まあ次があるその時にはリベンジだな」

ラグ（分身）「終わっちゃった…」

ラグ（本物）「僕達も次は負けないうががんばらなきゃ！」

キノガッサ「俺もがんばらないとな」

バベル「まだまだ修行が足りなかったな」

ユーム「……」

サンナ「負けちゃった（泣）」

イシア「姉さん泣かないでよ（汗）次はがんばれるようにしよう（汗）」

セイント「次はぜってえ負けねえ！」

ドルク「俺も特訓して優勝できるようにしてやる！ソウ！帰って特訓だ！」

ソウ「はい！師匠！」

リオネ「結局はこのバカイタチのせいで（汗）」

ラハール「責任とってねバカイタチ」

ユーノ「……」↑屍状態

ウェア「あゝでも次は負けないからな！」

トオル「俺達は楽しかったな」

リュウ「そうだな」

アキ「また参加したいな」

マキ「そうね」

こうして

バトル部の体育祭は

これにて幕を閉じた

最終種目 自由走（後書き）

えゝ更新遅れてもうしわけありません！とりあえず短く終わってしまいました

とりあえずは色々あってなんとか終わらせましたが、グダグダになつてすみません！

これをバネにがんばっていきますので

ラッシュ「遅いぞ作者（汗）」

ごめん（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0497o/>

ポケハン学園バトル部！！体育祭！！

2011年10月6日15時54分発行